


西山遺跡出土特殊器台 2個体



指定区分	県指定重要文化財(考古資料)
読みかた	にしやまいせきしゅつどとくしゅきだい
所在地	倉敷市真備町箭田
指定年月日	令和5年3月14日
解説	<p>西山遺跡は小田川北岸の丘陵上(標高約35m)に所在していたが、住宅団地建設に伴って、昭和52年に発掘調査が実施された。その際に、弥生時代後期末葉から古墳時代前期(2世紀末から4世紀頃)にかけての墓域が発見され、その一角から、特殊器台2個体が棺として転用された状態で出土した。2個体は横倒しでつなが合わされた状態で出土したが、そのうち、器台1(残存部高さ78.0cm、胴部最大径38.0cm)は口縁部と脚部が打ち欠かれて胴部のみとなった状態で、上部を打ち欠いた器台2(残存部高さ60.0cm、胴部最大径40.0cm)の脚部に差し込まれていた。</p> <p>特殊器台は、装飾性豊かに焼き上げられた吉備地域特有の特別な大型の祭祀用土器であるが、完形に近い状態で出土する例は限定される中で、この2点の資料は完形に近く、胴部の巴形・三角形の透かし孔、連続S字状文、鋸歯文などの装飾や赤色顔料の塗布が良好に認められるため、資料的な価値は高く、編年研究上も重要である。加えて、棺に転用された珍しい例でもあり、埋葬に伴う特殊器台の多様な使用状況を考える上でも貴重である(倉敷市立真備図書館所蔵)。</p>
アクセス方法	井原鉄道 吉備真備駅から徒歩17分 玉島ICから自家用車で15分
公開状況	公開
設備	
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定重要文化財(考古資料)
ぶんかざいめい (文化財名)	西山遺跡出土特殊器台 2個体
よみかた	にしやまいせきしゅつどとくしゅきだい
しょざいち (所在地)	倉敷市真備町箭田
していしたひ (指定した日)	令和5年3月14日
せつめい	昭和52年に西山遺跡が発掘調査された時に出土した、大型のお祭り用の土器。お墓の周りに立て並べられるものが多いですが、この土器はお墓に葬(ほうむ)られた人の棺(ひつぎ)として使用された珍しいものです。高さ約1mの筒形(つつがた)で、特殊器台(とくしゅきだい)と呼ばれ、吉備(きび)地域(=今の岡山県と広島県東部)の有力者のお墓で使用されることが多かった大変貴重なものですが、ほぼ全体をとどめる形で見つかることは少なく、資料的な価値が高いものです。作られたのは弥生時代終わり頃(今から約1,800年前)です(倉敷市立真備図書館で所蔵)。